

きらりんしゃ

AIRA CITY NISHIKIE KINDERGARTEN

PHONE 63-2038

FAX 63-2034

見つめる先にあるもの！



表現するよろこび



野菜（命）を育てる（思いやり）



世話を（気づく・観察力）

子どもの成長に合わせた 親のかかわり

2学期を振り返り、ばら組・ゆり組の違いはあれど、10月の運動会やそれまでの取組、毎日の遊びの中で、先日行われた生活発表会やそれに向けた取組などを通して、子どもたちは様々なことを感じ学んできたようです。子どもたちのあの輝く目、少し緊張した面持ちでの所作、真剣そのものでした。でもそこには、自分なりに楽しんでいる雰囲気も感じられました。

人前で自分を表現する楽しさや自分の思いや考えを伝えることの難しさ、そして、よりよいものをみんなで創り上げる喜びなど子どもたちなりに感じてくれたのではないかでしょうか。子どもたちは意外と冷静に状況を把握しているようです。○○さん家のお母さん泣いてたよとか・・・。

子どもたちが徐々に、依存から自立へといった成長の変化に合わせて、子どもと関わる親の姿勢も、状況に応じた対応が求められることになります。「感じる」「見つめる」「見守る」「認める」のプロセスは、子どもが成長していく中で、親子の関わり方の基本になることを忘れないでいてほしいと思います。子どもは親から愛され、認められて自分に自信をもつことで、周りとの信頼関係を築くことができる自立した人へと育っていくのだと思います。

欠かせないのは、親自身の成長がとても重要になってくるということです。わが子はいつまでも自分の子どもに変わりはありませんが、いつまでも思い通りになる子どもではないということです。子どもたちの成功体験や失敗体験も成長のための財産だと考えることができれば、子どもたちの生活を大きな目で見守ることができそうですよね。でも、親はそうできないところにジレンマを感じ

るんですね。親の変わらない立ち位置にあるのかもしれません。子どもの成長に合わせて、感じ方、見守り方、声かけの仕方（褒め方）が変わってこなければ、子どもの信頼を得ることは難しくなってしまいます。言わないと伝わらないし、言い過ぎても伝わらない。気持ちのすれ違いをなくすには、何が大切なのでしょうか。意外と親子のコミュニケーションで難しいものですね。

そこで、「あなた」ではなく「わたし」メッセージで「あなたは○○だ」ではなく、「わたしは○○と感じる」というようにする。「あなたは片付けをするいい子ね」ではなく「ちゃんと片付けをしてくれて、お母さん助かるわ」

親が、「わたしは悲しい」「嬉しい」と伝えていくと、子どもは、親を誰よりも喜ばせたい、悲しませたくないと思っていますから、嬉しいと言つてもらえると、自分も嬉しくなってまたやろうとします。悲しいと言われると、まずいことしちゃつたなと心の中で思うのです。そういう言葉かけを繰り返していくことで、子どもの行動を変えていくことができるのです。

さあ、今日から「嬉しい、悲しい」をよく言うお父さん・お母さんになって実践してみましょう。

歳を重ねてこそ学べること

何の雑誌だったかは記憶にありませんが、こんな文章に出会いました。

「わたしから歳（とし）を奪わないでください。なぜなら、歳はわたしの財産だからです。」そうだなあと感心しながら、自分の歳が財産なんて言えるんだろうか？と思ふことでした。自分らしく生きること、時間を大切に過ごし、自分を成長させていかなければならないということに、改めて気付かされました。肉体的成長は終わっていたにしても、人間的成长にはまだ可能性が残されているかもしれません。伸びるというよりも、熟していくという言葉の方が適切かもしれません。（^_-）



今年もまたいろんな人にお世話になりました。子どもたち、保護者や地域の方々、家族、病院の先生。毎日過ごした園庭・園舎、使う人はきれいだと気持ちがいい。みんなのものだから大切に使う。そうするといつまでもきれいに使える。みんなで考えてみよう。

今年も残りわずか、やり残したことはありますか？あれをしておけばよかった・・・と後悔する前に。

2学期も充実した教育活動を開催することができました。これもひとえに保護者の皆様のご理解とご協力の賜だと心から感謝申し上げます。

ちょっと早いですが来年も、今年以上によい年になりますように。

来年は午年（うまどし）。目標に向かって飛躍と挑戦の年にしたいものです。

短い冬休みですが、家族で年末・年始を楽しく過ごしてください。